

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立嶺町小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年でも、全体的に目標値を上回っている。
- ・「知識・技能」のポイントが、4・6年生で目標値、全国の正答率を上回っている。習熟度に合わせた適用問題への取り組み、タブレットドリルの効果が表れている。
- ・「思考・判断・表現」は、全国の平均正答率と比べて高い。習熟度に合わせた課題解決型の授業を展開していることで、探究する力がついている。

(2) 課題

- ・「小数」単元における計算は全国の正答率も低く、本校も目標値を下回っている。
- ・作図の領域で、全国正答率よりを下回る問題が複数見られた。正確な目盛りの読み取り、用具の操作に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	校内平均正答率は、目標値に達成しており、全国平均正答率を上回っている。 (第4学年時)		
第5学年	「知識・技能」(内、「小数」「ひし形の作図」)の校内正答率のみ、目標値に達しておらず、全国平均正答率も下回っている。 (第5学年時)	「知識・技能」の校内正答率のみ、区平均正答率に達していない。 (第4学年時)	
第6学年	校内平均正答率は、目標値に達成しており、全国平均正答率を上回っている。 (第6学年時)	校内平均正答率は、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。 (第5学年時)	校内正答率は区平均正答率と同じで、目標値、全国平均正答率をやや上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値、全国正答率を上回っている。 ・前年度比で校内の平均正答	・校内の平均正答率は目標値を上回った。一方で校内平均正答率は昨年度よりも	

率を上回っている。	下回っている。 ・「□を使った式」「わり算」の校内平均正答率は目標値を下回っている。	
-----------	---	--

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈5年生〉 ・校内平均正答率は、全国平均正答率と同じである。 ・「小数第一位×整数の計算」「小数第二位÷整数の計算」は目標値を大幅に下回っているが、全国の正答率も低い。 〈6年生〉 ・校内平均正答率は、全国平均正答率を上回っている。 ・「多角形と円・合同」では合同な三角形の作図に課題が見られる。全国正答率よりも低い。	〈5年生〉 ・校内平均正答率は、全国平均正答率を上回っている。 ・「ひし形の作図ができる」は目標値に達してなく、半数以下の正答率となっているが、全国の正答率も低い。 〈6年生〉 ・校内平均正答率は、全国平均正答率を上回っている。 ・「小数の計算」では、計算自体をできていて、文章問題も全国正答率よりも高い傾向にある。	

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・測定領域の技能を身につけるため、具体物の操作を取り入れたり、日常の中で体験的に学習を繰り返したりする。 ・計算の基礎であるたし算やひき算、九九の確実な定着のため、児童の実態を把握し個に応じた課題を示せるようにする。	・自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えを書いたり話したりする機会を設定する。また、友達の考えを説明するなど、協働的な学びへの基礎を養う。	・課題の場面設定を日常に即したものにし、自分ごととして課題を捉えられるように工夫する。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「正三角形の作図」では、正確に目盛りを読み取る	・「□を使った式」では、□が何を表すか児童に考え	・児童が必要感のある問いや課題をもてるような工夫

ことを徹底する。また、コンパスの使い方・手順を改めて指導する。	させる。実生活の問題で式を立てさせ、理解の一助とする。 ・「わり算」では、商とあまりの意味を考えさせる。問題文の意味を考えさせたり発言させたりする中で余りを切り上げることの理解を促す。	をする。
--	---	-------------

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈5年生〉 ・コンパスを使用して作図する際の手順を確認したり、長さを測る用具としても活用したりする。 ・タブレットドリルを活用する。 〈6年生〉 ・小数のかけ算、わり算では繰り返し練習問題を行い、計算の仕方に慣れさせる。 ・タブレットドリルを活用する。 ・合同な三角形を作図する際の条件を確認し、分度器やコンパスを正しく使えるようにする。タブレットドリルではなく、実際に作図する時間を確保する。	〈5年生〉 ・立式する際に、何を求めるのか、□で表す場所や一方の値からもう一方の値を求める方法を確認する。 〈6年生〉 ・与えられた情報を読み取る力を付けるために、文章から何が分かっているのか、何を求めるのかななどを丁寧に指導する。	〈5年生〉 ・児童が必要感のある問いや課題をもてるような工夫を図る。 〈6年生〉 ・児童が必要感のある問いや課題をもてるような工夫を図る。